

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	8	1学年 年間予定表
1年	36	看護学概論
1年	50	基礎看護学実習Ⅰ
1年	51	基礎看護学実習Ⅱ
1年	72	地域・在宅看護援助論Ⅱ
1年	113	小児看護学実習
1年	117	在宅看護論実習
3年	121	看護研究

2023年度 看護学科1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月							1
	2	3	4	5	6 入学式	7 オリエンテーション	8
	9	10	11 1	12 1	13 1	14 1 健康診断	15
	16	17 1	18 2	19 2	20 2	21 2	22
	23	24 2	25 3	26 3	27 3	28 3	29
	30	1 3	2 4	3	4	5	6
5月	7	8 4	9 5	10 4	11 4	12 4	13
	14	15 5	16 6	17 5	18 5	19 5	20
	21	22 6	23 7	24 6	25 6	26 6	27
	28	29 7	30 8	31 7	1 7	2 7	3
6月	4	5 8	6 9	7 8	8 8	9 8	10
	11	12 9	13 10	14 9	15 9	16 9	17
	18	19 10	20 11	21 10	22 10	23 10	24
	25	26 11	27 12	28 11	29 11	30 11	1
7月	2	3 12	4 13	5 12	6 12	7 12	8
	9	10 基礎看護学実習Ⅰ	11 基礎看護学実習Ⅰ	12 基礎看護学実習Ⅰ	13 基礎看護学実習Ⅰ	14 基礎看護学実習Ⅰ	15
	16	17	18 14	19 13	20 13	21 13	22
	23	24 定期試験	25 定期試験	26 定期試験	27 定期試験	28 定期試験	29
	30	31 解剖見学(予定)	1 解剖見学(予定)	2 解剖見学(予定)	3 解剖見学(予定)	4 解剖見学(予定)	5
8月	6	7 解剖見学(予定)	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 不合格者発表	22	23	24	25	26
	27	28 再試験	29 再試験	30 再試験	31 再試験	1	2
9月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22 オリエンテーション	23
	24	25 1	26 1	27 1	28 1	29 1	30

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2023年度 看護学科1年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月	1		2	2	3	2	4	2	5	2	6	2	7	
	8		9		10	3	11	3	12	3	13	3	14	
	15		16	3	17	4	18	4	19	4	20	4	21	(保護者会)
	22		23	4	24	5	25	5	26	5	27	5 せいの祭準備	28	せいの祭
	29		30	5	31	6	1	6	2	6	3		4	
11月	5		6	6	7	7	8	7	9	7	10	6	11	
	12		13	7	14	8	15	8	16	8	17	7	18	
	19		20	8	21	9	22	9	23		24	8	25	
	26		27	9	28	10	29	10	30	9	1	9	2	
12月	3		4	10	5	11	6	11	7	10	8	10	9	
	10		11	11	12	12	13	12	14	11	15	11	16	
	17		18	12	19	13	20	13	21	12	22	12	23	
	24		25	13	26	14	27		28		29		30	
	31		1		2		3		4	13	5	13	6	
1月	7		8		9	15	10	14	11	14	12	14	13	
	14		15	14	16	月15	17	15	18	15	19	15	20	
	21		22	定期試験	23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験	26	定期試験	27	
	28		29		30		31		1		2		3	
2月	4		5	基礎看護学実習Ⅱ	6	基礎看護学実習Ⅱ	7	基礎看護学実習Ⅱ	8	基礎看護学実習Ⅱ	9	基礎看護学実習Ⅱ	10	
	11		12		13	不合格者発表	14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26	再試験	27	再試験	28	再試験	29		1		2	
3月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19	(卒業式)	20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31													

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング							
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-01							
	●												
科目名	看護学概論				単位認定者	木下 美佐子		評価の方法	試験(筆記)	60	%		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30	%		
						授業時間数	30 時間		受講態度	10	%		
					授業形態	講義	授業回数		15 回				
授業の概要	看護専門職の基盤となる知識の習得のために、看護に関する基本的概念、看護の主要な看護理論と歴史の変遷と関連、看護の対象である人間と生活・環境、看護活動の場や仕組み、看護に関連する法規などを学び、看護の本質・価値に基づき自ら看護の役割の遂行に必要な基礎的知識を身につける。												
到達目標	1. 看護の定義や概念、看護に関連する法規について説明できる。 2. 看護の対象である人間の成長発達、健康や生活・環境と看護の関連性について説明できる。 3. 看護の歴史の変遷と看護実践における主要な理論について説明できる。 4. 保健・医療・福祉における看護の特徴と役割について説明できる。												
学修者への期待等	看護概論は看護学の導入として専門領域を学ぶ上での土台となる科目です。ポートフォリオを用いながら主体的学習態度を身につけ、看護の基盤となる思考が深まることを期待します。												
回	授業計画					準備学修				担当			
1	授業ガイダンス：看護を学ぶことについて					ポートフォリオ作成に向けた説明をする。看護に対する今の考えをまとめ授業参加すること				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
2	看護の誕生と発展					教科書①P43～P46、P48～P51で、復習し、ポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
3	日本における看護の変遷					教科書①P46～P48、P51～P54で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
4	看護の対象理解					教科書①P70～P94で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
5	ライフサイクルと健康					教科書①P96～P124で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
6	看護理論の理解(1)：ナイチンゲール事例についてグループワーク、プレゼンテーション					看護実践事例から実践と理論の関係についてグループワークに参加できるように、教科書①、②の該当する理論家について予習しておくこと。授業での課題や学びを復習し、ポートフォリオを作成する。(概ね1時間)				木下 菊池		美佐子 眞紀子	
7	看護理論の理解(2)：ヘンダーソン事例についてグループワーク、プレゼンテーション												
8	看護理論の理解(3)：ペプロウ事例についてグループワーク、プレゼンテーション												
9	看護理論の理解(4)：オレム事例についてグループワーク、プレゼンテーション												
10	看護理論の理解(5)：トラベルビー事例についてグループワーク、プレゼンテーション												
11	看護ケアの基本的役割					教科書①P184～P204で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
12	看護に関連する法規					教科書①P206～P234で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
13	専門職としての看護と教育					教科書①P20～P43、P55～p65、P322～324で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
14	保健・医療・福祉のシステムと看護					教科書①P236～P274で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
15	さまざまな看護の場とこれからの看護					教科書①P276～P324で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)				木下 菊池	美佐子 眞紀子		
教科書	①「ナースンググラフィカ看護学概論」志自岐泰子他編集、メディカ出版 ②「看護理論 看護理論21の理解と実践への応用」筒井真優美編集、南江堂 ③「看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2022」公益社団法人日本看護協会編、日本看護協会出版会												
参考文献	「看護覚え書-看護であること看護でないこと」F. ナイチンゲール著、児玉香津子他訳、日本看護協会出版会 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯横ます他訳、日本看護協会出版会												
備考	科目ポートフォリオを作成し、筆記試験終了時に提出を求めます。 授業内課題については次回の講義でフィードバックします。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。												

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、看護認定管理者としての経験を活かした講義をすることにより、学生が看護実践をイメージして「看護」に対する考察が深められるようにする。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング NS-2-CNP-01				
		●	●	●						
科目名	基礎看護学実習Ⅰ				単位 認定者	木下 美佐子		評価の 方法	実習目標 到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	看護の対象としての人間と看護の場を理解するために、実際の病院や地域での活動を見学し、看護の役割や機能、健康者や障害を持つ人を身体的・心理的・社会的・文化的側面からの理解に必要な基礎的能力を身につける。									
学修者への 期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にできることを期待する。									
授業計画										
Ⅰ. 実習期間：令和5年7月10日（月）～7月14日（金）										
Ⅱ. 実習施設：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、JR仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、JCHO仙台病院、老人福祉センター（台原・高砂・大野田・郡山・泉中央）										
Ⅲ. 実習目的										
1. 健康生活を支えている地域での活動の場や医療施設における看護活動を見学して、施設の環境を知り、対象者（利用者・患者）を理解する。										
2. 医療施設での患者と看護師の関わりを見学し、看護の役割や機能について考える。										
3. 基本的な実習態度を身につける。										
Ⅳ. 実習目標										
1. 健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。										
2. 利用者や患者の思い等に関心を向け対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。										
3. 看護活動の見学を通して、看護がどのように実践されているのかわかる。										
4. 看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。										
Ⅴ. 実習計画										
1. 学内実習										
1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を十分行い実習に臨む。										
2. 病院実習										
1) 患者1名を受持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。										
2) 看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。										
3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。										
3. 施設実習										
1) 利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。										
4. 実習のまとめ										
1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。										
教科書	特に指定しない									
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	詳細は後日配付する実習要項参照 担当者：専任教員 木下美佐子、竹田理恵、佐藤清湖、佐々木重徳、小林淳子、岡崎優子、菅原尚美、真溪淳子、伊藤茉莉子、東海林美幸、二口尚美 非常勤講師 松田郷子、菊池真紀子、加藤真理子、江口美知子、横尾みどり *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師の実務経験がある教員が担当し、健康を支える看護の役割について学修できるように指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●	●		NS-2-CNP-02				
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位 認定者	木下 美佐子		評価の方法	実習目標 到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	看護の対象者のニーズをとらえ適切な看護を実践できる基礎的な知識・技術を学び、状態に応じた看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
学修者への 期待等	学内で学んだ看護学概論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、積極的な姿勢で実習に臨むことを期待する。									
授業計画										
Ⅰ．実習期間：令和6年2月5日（月）～2月9日（金）										
Ⅱ．実習施設：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、宮城県立がんセンター、JR仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、JCHO仙台病院										
Ⅲ．実習目的										
1. 受持ち患者の日常生活に関する問題をクリティカルな思考で考えることができる。										
2. 受持ち患者の個別性を踏まえ、基本的な日常生活の看護援助ができる。										
3. 看護職を目指す学生として、基本的な実習態度を身につける。										
Ⅳ．実習目標										
1. 受持ち患者の療養環境について、生活者の視点から理解できる。										
2. 受持ち患者の日常生活に関する情報を収集し、問題について考えることができる。										
3. 受持ち患者と良い人間関係を築き、個別性を踏まえた看護援助の目的・必要性が理解できる。										
4. 受持ち患者に対して、安全・安楽を考慮した基本的な日常生活の看護援助ができる。										
5. 看護学生として継続的な学修の必要性を理解し、責任ある態度で行動できる。										
Ⅴ．実習計画										
1. 学内実習										
1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を十分行い実習に臨む。										
2. 病院実習										
1) 患者1名を受持ち、日常生活の問題を論理的に考える。										
2) 受持ち患者に対する適切な援助方法を学ぶ。										
3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。										
3. 実習のまとめ										
1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」について自分の考えを深める。										
教科書	特に指定しない									
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	詳細は後日配付する実習要項参照 担当者：専任教員 木下美佐子、竹田理恵、佐藤由記子、佐藤清湖、佐々木重徳、阿部幹佳、二口尚美、岡崎草代夏、岡崎優子、佐藤理恵、坂村佐知、高橋由美、真溪淳子 非常勤講師 松田郷子、大石慶子、菊池真紀子、加藤真理子、江口美知子									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師として臨床経験がある教員が担当し、患者の日常生活に関する問題を論理的に考えることを指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-04				
	●	●			●					
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ				単位認定者	高橋 由美		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題	40 %
						授業時間数	46 時間			
				授業形態	演習	授業回数	23 回			
授業の概要	地域包括ケアシステムの対象（脳血管疾患療養者、認知症高齢者、在宅難病療養者、在宅で療養する障がい者・医療的ケア児、ターミナル期の療養者）のケアニーズや、多様な場や状況に応じた看護支援方法および在宅看護におけるケア（在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法）の原則や援助方法を学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. さまざまな事例から在宅療養者とその家族や環境を理解し、状況に応じた支援方法や援助技術を習得することができる。 2. 在宅における医療管理を必要とする人とその特徴的な看護について習得することができる。									
学修者への期待等	在宅看護は対象者と家族の尊厳のある生活を支える個別ケアである。従ってプライバシーを守ることやあらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断力など、看護師のより高い資質が求められる。人間理解の学修は基より、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、関連領域の振り返りを行った上で臨んでほしい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	【講義】在宅における援助技術 ①生活・医療ケアの原則					2章-1～3、4章-1について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美	
2	【講義】在宅における援助技術 ②食の援助・在宅経管栄養法 在宅中心静脈栄養法					3章-1、4章-11～12について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美	
3	【講義】在宅における援助技術 ③清潔の援助・移動の援助					3章-3～4について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美	
4	【講義】在宅における援助技術 ④排泄の援助					3章-2、4章-9～10について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美	
5	【講義】在宅における援助技術 ⑤感染予防 褥瘡予防					2章-5、4章-13について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美	
6	【講義】事例にみる在宅看護 ①脳血管疾患患者とその家族					6章-4について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美	
7	事例にみる在宅看護 ②在宅での生活を希望する脳梗塞後遺症のある高齢者								高橋 由美	
8	【講義】事例にみる在宅看護 ③在宅の認知症高齢者とその家族					6章-3について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子	
9	事例にみる在宅看護 ④被虐待が疑われる認知症高齢者								真溪 淳子	
10	【講義】事例にみる在宅看護 ⑤在宅で療養する障害者（成人）					6章-7について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子	
11	【講義】事例にみる在宅看護 ⑥在宅で療養する障害者（小児）					6章-9について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子	
12	【講義】事例にみる在宅看護 ⑦在宅で療養する障害者（精神）					6章-8について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子	
13	【講義】事例にみる在宅看護 ⑧ターミナル期の療養者とその家族					2章-6、4章-3、4章-17、6章-5について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子	
14	事例にみる在宅看護 ⑨最期まで自宅で過ごしたいターミナル期がん療養者								真溪 淳子	
15	【講義】在宅における援助技術 ⑥呼吸の援助と医療ケア					3章-5、4章-4～7について予習復習する（1時間）			高橋 由美	

回	授業計画	準備学修	担当
16	在宅における援助技術 ⑦在宅酸素療法と援助の実際	授業内課題 レポート提出（詳細は授業内で説明する）・小テスト	高橋 由美 真溪 淳子 中野 千加子 庄司 玲美 家子 敦子 加藤 真理子 江口 美知子
17	在宅における援助技術 ⑧在宅人工呼吸療法と援助の実際		
18	【講義】事例にみる在宅看護 ⑩在宅難病療養者とその家族	6章-6について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）	高橋 由美
19	事例にみる在宅看護 ⑪在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS患者		高橋 由美
20	在宅看護過程 ①事例検討（初回訪問・ロールプレイ）	【事前】地域・在宅看護概論Ⅱの訪問看護過程とケアマネジメントについて復習して臨むこと。 【事後】配布資料および授業を復習し、課題に取り組む。 授業内課題 レポート提出（概ね3時間）	高橋 由美 真溪 淳子 中野 千加子 家子 敦子 加藤 真理子 江口 美知子
21	在宅看護過程 ②事例検討（情報収集・アセスメント）		
22	在宅看護過程 ③事例検討（看護計画）		
23	在宅看護過程 ④事例検討（ケアマネジメント）		
教科書	「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」 臺有桂他編、MCメディカ出版		
参考文献	「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」 臺有桂他編、MCメディカ出版 「写真でわかる訪問看護」 押川真喜子監修、インターメディカ 「場面で学ぶ在宅看護論」 臺有桂他編、MCメディカ出版		
備考	授業内課題は講義時にフィードバックする		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護職として、地域・在宅看護の実務経験を活かし、具体的事例や看護実践方法を紹介しながら授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-13				
	●	●	●	●	●					
科目名	小児看護学実習				単位認定者	武田 美奈子		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	「小児看護学概論」での知識をもとに健康な子どもに出会い、健全な子どもの成長発達の実際とそれを支援する周囲の人的物的環境について理解する。その上で、「小児看護学援助論Ⅰ」「小児看護学援助論Ⅱ」での知識をもとに、在宅で療養できるように重要な外来看護・健康な子どもがより健康的に成長発達していくための予防接種・乳幼児健診への看護を実際から学ぶ。さらに入院を余儀なくされた子どもの健康回復への援助やその家族に対しての援助・入院による影響を最小にする援助について学ぶ。									
学修者への期待等	実習前に小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し、健康な子ども像・健康障がいをもつ子ども像を描き、必要な看護について学修し臨むこと。 保育所・外来・病棟実習と全てつながりのある実習なので、1つ1つ目標を意識した学びを積み重ねて欲しい。自己の体調管理にも十分努めること。									
授業計画										
Ⅰ．実習期間：令和5年5月8日(月)～11月10日(金) 1グループ：2週間										
Ⅱ．実習施設：泉チェリーこども園、泉第2チェリーこども園、西多賀チェリーこども園 仙台赤十字病院、仙台市立病院、宮城県立こども病院、光ヶ丘スペルマン病院、JR仙台病院										
Ⅲ．実習目的：成長発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障がいの有無にかかわらず、よりよい成長発達をとげるための看護を実践する能力を養う。										
Ⅳ．実習目標 1. 子どもとその家族の人権を尊重し、積極的に関わることができる。 2. 子どもの発達段階や健康の段階に合わせた看護が考えられ、小児看護の役割が理解できる。 3. 子どもやその家族、実習関係者とコミュニケーションを図り、良好な関係形成に努め、援助が実践できる。										
Ⅴ．実習計画 1. 学内実習 1) 実習全体オリエンテーション 2) 看護過程学習 3) 看護技術学習 2. 臨地実習 1) 保育所実習 2) 外来実習 3) 病棟実習										
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」 奈良間美保他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」 奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	「こどもの病気の地図帳」 鴨下重彦・柳沢正義監修、講談社 「発達段階からみた 小児看護過程」 石黒彩子・浅野みどり編、医学書院 「写真でわかる小児看護技術」 山元恵子監修、インターメディカ 「根拠と事故防止からみた小児看護技術」 浅野みどり編集、医学書院									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 学内カンファレンス・記録提出については教員の指示に従う 担当者：専任教員 佐藤幸子 、武田美奈子、岡崎草代夏 非常勤講師 鹿野ひとみ、遠藤昭枝、高橋あつ子、大石慶子 工藤俊平（実習オリエンテーション） ※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
この授業は、学修した小児看護の知識・技術・態度を実際に対象に合わせ実践する科目である。そのため教員は臨床実務経験を活かし、実践に即した教授を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	NS-3-AIC-05				
科目名	在宅看護論実習				単位 認定者	高橋 由美		評価 の 方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	在宅看護を実践している訪問看護ステーションや在宅看護に関係する施設での実習を通して、地域で療養しながら生活している人とその家族を理解し、在宅看護の基礎を学ぶ。									
学修者への 期待等	在宅看護は対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。従って対象者のプライバシーやあらゆることの意味決定を尊重するなど、看護師としてより高い資質が求められる。深い人間理解と教育的な要素も備えていなければならないので相手から学び取る姿勢も大事にしてほしい。在宅看護は原論や援助論のみならず他領域で学んだ知識、技術を活用して実りの多い実習にしてほしい。									
授業計画										
I. 実習期間：令和5年5月8日（月）～11月2日（木） 1グループ：2週間										
II. 実習施設：訪問看護ステーション・看護小規模多機能施設・通所介護（看護）施設										
III. 実習目的：地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、在宅看護の基礎を学ぶ。										
IV. 実習目標										
1. 地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解する。										
2. 在宅で療養している人とその家族への看護支援を学ぶ。										
3. 在宅療養を支える機関や職種の役割と連携について学ぶ。										
V. 実習計画										
1. 学内実習										
1) 実習オリエンテーション										
2) 看護技術学習										
3) 実習まとめ										
2. 臨地実習										
1) 訪問看護ステーション：指導者との同行訪問を通して在宅看護の実際を学ぶ。										
2) 看護小規模多機能施設・通所介護（看護）施設：看護職が運営・管理する施設において在宅看護の実際を学ぶ。										
教科書	「ナースিং・グラフィカ 在宅看護論①：地域療養を支えるケア」 臺有桂他編、MCメディア出版 「ナースিং・グラフィカ 在宅看護論②：在宅療養を支える技術」 臺有桂他編、MCメディア出版									
参考文献	「写真でわかる訪問看護」 押川真喜子監修、インターメディカ									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 高橋由美、小林淳子、真湊淳子 非常勤講師 中野千加子、加藤真理子、江口美知子、赤間美恵子 ※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護職として、さらに地域看護活動の実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を支援する。

						科目ナンバリング				
						NS-3-AIC-09				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	看護研究				単位 認定者	桑田 恵美子		評価の方法	試験（レポート）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数			
授業の概要	看護研究に関する一般的知識を身につけ、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。臨地実習で学んだ看護体験を客観的に振り返り、ケーススタディの意義と研究プロセスを理解し、看護理論・文献を活用しながら、研究成果の発表・評価を行い、ケーススタディとしてまとめる能力を習得する。									
到達目標	1. 看護研究を行なう意義、方法、研究プロセスを述べることができる 2. 文献検索ができ、検索した文献を抄読してその要旨をまとめ、自己の学びを記載できる 3. 看護研究における倫理的配慮の意義を述べることができる 4. 臨地実習で学んだ看護体験を客観的に振り返り、看護理論・文献を活用しながら自己の看護体験の効果と課題を明確にしてケーススタディ（ケースレポート）をまとめ・発表ができる									
学修者への期待等	看護研究を始めるにあたって「研究というと新しいことの発見」と難しいと捉えがちですが、新しいことにもいろいろなレベルがあります。すでに知られていることを組み合わせて新しいやり方を見つけたり、知られている事実に新しい解釈を加えたり、いたるところに研究の種があります。ケーススタディ（ケースレポート）は、自分の行った実践を振り返り、文献を根拠にしながら客観的に意味づけを行うことにより自分自身の実践能力向上につながります。またまとめのプロセスを通して対象理解・看護の役割の理解、看護観の向上につながります。最終の成果物として意義あるものにしましょう。									
回	授業計画					準備学修		担当		
1	【講義】看護研究の役割と学ぶ意義、看護研究の変遷					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子		
2	【講義】研究における倫理的配慮					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子		
3	【講義】看護研究の種類とその特徴					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子		
4	【講義】ケーススタディ（ケースレポート）・事例研究の意義と進め方					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子		
5	【講義】文献レビューとその方法					【事後】興味のある文献を調べて1編持参する（概ね1時間）		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
6	ワーク1：文献を検索してみよう ①興味のある文献を読み、要旨をまとめる ②学んだ内容をまとめる							桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
7	ワーク2：文献を読み、文献を整理してみよう レポート課題返却					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子		
8	【講義】論文作成 論文の構成・記載時の注意点・考察の書き方					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子		
9	ケーススタディ（ケースレポート）ケース選択					前期領域実習中の事例整理 実習記録の内容把握（概ね2時間）		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
10	ケーススタディ（ケースレポート）テーマの決定					指導担当教員の決定後連絡をとり、助言を受ける		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
11	ケーススタディ（ケースレポート）事例に係る文献検索					指導担当教員の助言を受けて文献の検索		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
12	ケーススタディ（ケースレポート）レポート作成（テーマ～看護実践）					指導担当教員の助言を受けて文献の検索		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
13	ケーススタディ（ケースレポート）レポート作成（考察・まとめ）					指導担当教員の助言を受けて文献の検索		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
14	ケーススタディ（ケースレポート）レポート作成（論文の再検討）					指導担当教員の助言を受けてレポート作成、期限まで提出		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
15	発表-報告書の作成と発表 プレゼンテーション資料作成に向けて					【事後】授業後感想（学び） （概ね40分）		桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
教科書	「系統看護学講座 別巻 看護研究」坂下玲子他著、医学書院 「最新版 大学生のためのレポート・論文術」小笠原喜康著、講談社現代新書									
参考文献	「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」松本孚・森田夏美編、照林社 「初めての看護研究」前田樹海、ナツメ社									
備考	授業内課題はレポート課題（10%）、授業後感想・学び（10%）で評価する。 授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。 指導担当教員： 高橋由美、阿部春美、木下美佐子、小林淳子、武田美奈子、阿部幹佳、岡崎優子、佐藤理恵、菅原尚美、真溪淳子、二口尚美、竹田理恵、坂村佐知、岡崎草代夏、東海林美幸、 泉田さとみ 遠藤美穂子、佐藤清湖、佐々木重徳、小倉真紀、佐藤幸子									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師として臨床の実務経験がある。臨床での看護研究を実施してきている。